

## 岩手県内の福祉事業所・特別支援学校における芸術活動支援の現状と課題

佐藤匡仁<sup>1</sup>・村井 資<sup>2</sup>

### Support for Artistic Activities in Welfare Offices and Special Needs Schools of Iwate Prefecture

SATO Masahito, MURAI Moto

岩手県内全ての福祉事業所及び特別支援学校を対象に、障害児・者の芸術活動支援に関する実態調査を実施した。福祉事業所及び特別支援学校において、芸術活動を支援する上での阻害要因と促進要因について抽出することを目的とした。全308箇所を対象に質問紙調査を行い137箇所から回答を得た（回収率44.48%）。その結果、64.44%の事業所等で芸術活動を行い、「絵」、「歌」、「書道」等への支援に取り組まれていた。一方、35.56%の事業所等からは取り組みがないと回答され、その理由として、「生産活動優先で余裕がない」、「いずれと思うが取り組めていない」、「本人に関心がない」等があげられた。芸術活動支援を始めるために必要な条件として、「制作支援による利用者の変化・成果を知る」、「地元での展示・発表機会の増加」、「専門家の訪問による支援方法の教示」等があげられたことから、多様なニーズに対応した実践の例示や具体的な支援方法の教示等の必要性が示唆された。

キーワード：岩手県 福祉事業所 特別支援学校 芸術活動支援 阻害要因と促進要因

A survey was conducted on conditions required for supporting artistic activities of handicapped children and people at welfare centers and special needs schools in Iwate Prefecture. This survey was designed to examine factors obstructing or promoting support. A questionnaire was administered in 308 facilities, and 137 responses were collected (a response rate of 44.48%). Results indicated that artistic activities were conducted in 64.44% of the facilities, which included drawing, singing, and calligraphy, among others. On the other hand, 35.56% of the facilities did not conduct such activities. They gave the following reasons among others for not conducting artistic activities: “productive activities are prioritized,” “sometime in the future, but not now” and “handicapped children/people have no interest in artistic activities.” The following were considered necessary for initiating support for artistic activities: “recognizing changes and achievements in users that are facilitated by artistic activities,” “increased opportunities for exhibition and presentations in local communities,” and “specialists’ instructions on support methods.” It is concluded that demonstrating practical cases corresponding to various needs and giving instructions in concrete support methods would be required to develop artistic activities.

Keywords : Iwate Prefecture, welfare offices, special needs schools, support for artistic activities, obstructive and promotional factors

#### Ⅰ. はじめに

本研究は、平成27年度岩手県立大学地域政策研究センター地域協働研究地域提案型前期「芸術活動を通した障がい者の生きがいづくり－障がい者の社会参加を促進する公募展のあり方について－（研究

代表者佐藤匡仁）」において行った研究成果の一部である。この地域協働研究は、いわて・きららアート協会事務局、村井資氏からの提案により、障害者の芸術活動支援について、①福祉事業所及び特別支援学校を対象とした実態調査を行い、得られた知見

<sup>1</sup> 岩手県立大学社会福祉学部

<sup>2</sup> いわて・きららアート協会

を公募展企画等の運営計画に改善点として反映させること、②芸術活動支援の理解と促進に結びつけ、岩手県の障害者芸術活動を一層盛んにする手立てを検討することをねらいとしている。

村井氏の所属するいわて・きららアート協会は、「福祉のフィルターからアートの視点へ」との願いを込めて、当時の福祉施設職員・養護学校教員・障害者の家族らが中心になり 1997 年に設立された協会である。以後、障害者の芸術文化活動を通して豊かに生きていくことのできる社会の実現に向けて、①公募展「いわて・きららアート・コレクション」、②入賞作品巡回展、③アートサポーター研修、④特別展「きららアート十年展」「きららアート・スペシャル・セレクション」、⑤岩手県立美術館との連携等の取り組みを行ってきた。例えば、①の「いわて・きららアート・コレクション」は、年 1 回開催される公募展で、2016 年 3 月に第 19 回目が開催された。近年は 250 点以上の出展申し込みがある。20 点の入賞作を選出し、そのうち何人かは県外・海外の企画展に出展要請が来るなど、大きく活躍するきっかけの場ともなっている。第 2 回以降会場は盛岡市民文化ホール展示ホールで開催され、1 週間足らずの会期で県内外から 1000 人を超える来場者がある。

これら「いわて・きららアート・コレクション」をはじめ、岩手県における障害者の芸術活動支援の取り組みは、民間の任意団体が会員や協賛を募りながら、公募展を中心にした各種事業を継続・展開し、質の高い作品を多数輩出してきた点で全国的に例が少ない。東北地方は関西圏などに比べ、障害者芸術に対する理解が高いとはいえない中、岩手県での取り組みは群を抜いて高く評価されてきた。しかしながら、近年は、公募展への申し込み数は一定数を維持しているものの、新規入賞者は漸減傾向（質的にも十分とはいえない水準）にある。もともと福祉事業所では、「美術＝生産的でない遊び」との認識がなされる場合もあり、担当職員の意欲や力量によって作品の動向に影響を受けやすい課題が指摘されている。また、支援費制度、障害者自立支援法、障害者総合支援法等をはじめとする近年の法改正の変遷もあり、余暇活動支援における美術などの優先順位は低く置かれがちになる現状もある。したがって、本研究では、障害児・者の芸術活動支援に関する実態調査を実施し、得られた知見を今後の岩手県にお

ける芸術活動支援の理解と促進、芸術活動を通した障害者の生きがいづくりに役立てたい。

本研究の目的は、岩手県内全ての福祉事業所、及び特別支援学校を対象に、障害児・者の芸術活動支援に関する実態について質問紙調査を実施し、活動に携わる担当者の視点から支援の阻害要因と促進要因を抽出することである。

## Ⅱ．方法

### 1．対象

岩手県内全ての福祉事業所（292 箇所）及び特別支援学校（16 校）、計 308 箇所を対象とした。

### 2．手続き

2016 年 2 月～3 月にかけて、郵送法による質問紙調査を実施した。回答者は、各事業所・学校において、障害児・者の芸術活動支援を担当する職員や教師、もしくはそれに相当する方 1 名に依頼した。質問内容は次の通りである。①事業所・学校における芸術活動支援の取り組み状況に関する項目、②「いわて・きららアート・コレクション」に関する項目、③その他の障害者アートに関する項目、④障害者アートに関する現在・理想・岩手の価値に関する項目、⑤障害者アートに関する価値の認識構造に関する項目、これらの設問に対して①②③は多肢選択式、④は自由定義法、⑤は文章完成法により回答を依頼した。データ収集及び分析方法は次の通りである。①②③は単純集計し、岩手県全体の芸術活動支援の実態について傾向と特徴を把握する。④は現在、理想、岩手毎に定義された言葉を分類・整理し、量的・質的な違いを把握する。⑤は「A なので、B だから、C」とのフォーマットで記述された言葉を、方向性や階層関係等の価値の認識構造について抽出する。倫理的配慮として、①調査は研究目的で実施されること、②「個人情報保護法」を遵守すること、③質問紙調査への参加は各事業所・学校担当者の自由意志であること、④いつ調査を撤回してもいかなる不利益も生じないこと、⑤回答したくない項目があれば無理に回答する必要のないこと、⑥報告に際しては個人・団体が特定されない細心の注意をはらうことなどを質問紙に明記した。

## Ⅲ．結果

調査の結果、回収数 137、回収率は 44.48％であっ

た。本稿では、岩手県内の福祉事業所及び特別支援学校における芸術活動支援の実態を調査し、現状と課題を検討する目的から、質問内容①②について分析と報告を行う。

### 1．属性

回答者の属性を Table1 に示す。性別は、男性 53 人（39.55％）、女性 81 人（60.45％）、年齢は 40 代が 57 人（42.54％）、50 代が 31 人（23.13％）、30 代が 29 人（21.64％）、60 代が 8 人（5.97％）、20 代が 8 人（5.97％）、70 代が 1 人（0.75％）であった。勤続年数は、5 年以下が 29 人（22.48％）、11 年～15 年が 29 人（22.48％）、6 年から 10 年が 28 人（21.71％）と 15 年までがそれぞれ 2 割ずつ全体の 65％程度で

| Table 1 回答者の属性              |       |    |        |
|-----------------------------|-------|----|--------|
|                             |       | 人数 | %      |
| 性別<br>(n=134)               | 男性    | 53 | 39.56  |
|                             | 女性    | 81 | 60.45  |
| 年齢<br>(n=134)               | 10 代  | 0  | 0.00   |
|                             | 20 代  | 8  | 5.97   |
|                             | 30 代  | 29 | 21.64  |
|                             | 40 代  | 57 | 42.54  |
|                             | 50 代  | 31 | 23.13  |
| 勤続年数<br>(n=129)             | 60 代  | 8  | 5.97   |
|                             | 70 代  | 1  | 0.75   |
|                             | 0-5   | 29 | 22.48  |
|                             | 6-10  | 28 | 21.71  |
|                             | 11-15 | 29 | 22.48  |
| 芸術活動支援に携わった<br>年数<br>(n=99) | 16-20 | 16 | 12.40  |
|                             | 21-25 | 12 | 9.30   |
|                             | 26-30 | 5  | 3.88   |
|                             | 31-35 | 7  | 5.43   |
|                             | 36-40 | 2  | 1.55   |
|                             | 41-45 | 1  | 0.78   |
|                             | 46-50 | 0  | 0.00   |
|                             | 0-5   | 63 | 63.64  |
|                             | 6-10  | 17 | 17.17  |
|                             | 11-15 | 7  | 7.07   |
|                             | 16-20 | 6  | 6.06   |
|                             | 21-25 | 5  | 5.05   |
|                             | 26-30 | 0  | 0.00   |
|                             | 31-35 | 1  | 1.01   |
|                             | 36-40 | 0  | 0.00   |
|                             | 41-45 | 0  | 0.00   |
|                             | 46-50 | 0  | 0.00   |
| 職名<br>(n=129)               | サビ管   | 46 | 35.66  |
|                             | 美術担当  | 11 | 8.53   |
|                             | その他   | 72 | 5 5.81 |

※無回答を除いた数値

あった。芸術活動支援に携わった年数は、5 年以下が 63 人（63.64％）、6 年～10 年が 17 人（17.17％）、最も長くて 31 年～35 年に 1 人回答された。職名は、サービス管理責任者が 46 人（35.66％）、美術（芸術）担当者が 11 人（8.53％）、その他が 72 人（55.81％）で、その他には、生活支援員 24、施設長 7、職業指導員 4、相談支援専門員 2、等が記述された。

## 2．事業所・学校での取り組み状況

### （1）芸術活動の有無

何らかの芸術に関する活動を行っているか尋ねたところ、「はい」が 87 箇所（64.44％）、「いいえ」が 48 箇所（35.56％）であった（Table2）。

| Table 2 芸術活動の有無 |    |       |
|-----------------|----|-------|
|                 | 箇所 | %     |
| はい              | 87 | 64.44 |
| いいえ             | 48 | 35.56 |
| n=135           |    |       |

### （2）取り組んでいる芸術活動

芸術活動の有無に「はい」と答えた 87 箇所のうち、取り組んでいる芸術に関する活動を複数回答可として尋ねたところ、絵 70 箇所（80.46％）、歌 45 箇所（51.72％）、書道 39 箇所（44.83％）、楽器 26 箇所（29.89％）、ダンス 26 箇所（29.89％）、刺繍 24 箇所（27.59％）、木工 19 箇所（21.84％）、写真 17 箇所（19.54％）、陶芸 12 箇所（13.79％）、俳句 5 箇所（5.75％）、作詞 2 箇所（2.30％）、その他 24 箇所（27.59％）であった（Table3）。

| Table 3 取り組んでいる芸術活動 |      |       |
|---------------------|------|-------|
| 芸術活動                | 箇所   | %     |
| 絵                   | 70   | 80.46 |
| 歌                   | 45   | 51.72 |
| 書道                  | 39   | 44.83 |
| 楽器                  | 26   | 29.89 |
| ダンス                 | 26   | 29.89 |
| 刺繍                  | 24   | 27.59 |
| 木工                  | 19   | 21.84 |
| 写真                  | 17   | 19.54 |
| 陶芸                  | 12   | 13.79 |
| 俳句                  | 5    | 5.75  |
| 作詞                  | 2    | 2.30  |
| その他                 | 24   | 27.59 |
| 複数回答可               | n=87 |       |

### （3）活動の形態

芸術活動の有無に「はい」と答えた 87 箇所のうち、芸術に関する活動をどのような形態（時間や



場）で取り組んでいるか複数回答可として尋ねたところ、「主たる活動（学校では授業）として取り組んでいる」54箇所（62.07％）、「余暇や休憩時間（学校では授業外）等の活動として取り入れている」43箇所（49.43％）、「利用者や児童・生徒個人の活動を支援したり、利用者や児童・生徒からの相談に応じたりしている」25箇所（28.74％）、「その他何らかの形でサポートしている」17箇所（19.54％）であった（Table4）。

| Table 4 活動の形態 |      |       |
|---------------|------|-------|
|               | 箇所   | %     |
| 主たる活動         | 54   | 62.07 |
| 余暇・休憩         | 43   | 49.43 |
| 個々支援          | 25   | 28.74 |
| その他           | 17   | 19.54 |
| 複数回答可         | n=87 |       |

#### （４）優先させて大切にしていること

芸術活動の有無に「はい」と答えた87箇所のうち、芸術に関する活動について、事業所・学校として何を優先させて大切に取り組んでいるか、選択肢を提示して1～3位まで順位づけを求めた。1位に3点、2位に2点、1位に1点をあて、得られた合計得点をFigure1に示す。「制作を通して本人が喜びを感じること」229点、「発表等を通して、本人が社会参加する機会を設けること」86点、「作品の発表や表彰などを通して、本人が自信をつけること」85点、「制作・発表などを通して、地域の人とのふれあいの機会を設けること」56点、「制作した物の販売などを通して、金銭的な収入を得ること」20点、「利用者の作品を通して、社会に何かメッセージを伝えていくこと」14点、「その他」13点であった。

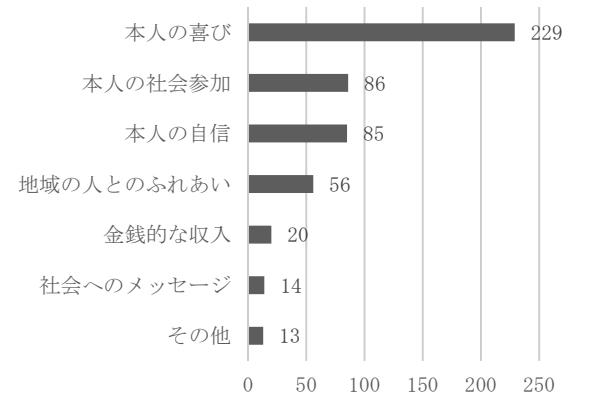


Figure 1 優先させて大切にしていること

#### （５）芸術活動支援で困ることの有無

芸術活動の有無に「はい」と答えた87箇所のうち、芸術活動支援で困っていることがあるか尋ねたところ、「ある」62箇所（71.26％）、「ない」25箇所（28.74％）であった（Table5）。

| Table 5 困ることの有無 |      |       |
|-----------------|------|-------|
|                 | 箇所   | %     |
| ある              | 62   | 71.26 |
| ない              | 25   | 28.74 |
|                 | n=87 |       |

#### （６）芸術活動支援で困っていること

芸術活動支援で困っていることがあると答えた62箇所のうち、困っている内容について選択肢を提示し、1～3位まで順位づけを求めた。1位に3点、2位に2点、1位に1点をあて、得られた合計得点をFigure2に示す。「専門的なスタッフがいらない・足りない」126点、「支援の仕方がわからない」67点、「予算が乏しい」41点、「収益につながらない、収益が少ない」26点、「本人がやっていることが何なのかよくわからない・伝わらない」16点、「職場・上司・保護者など、周囲の理解が弱い」11点、「本人がなかなか上手にならない」2点、「その他」51点であった。

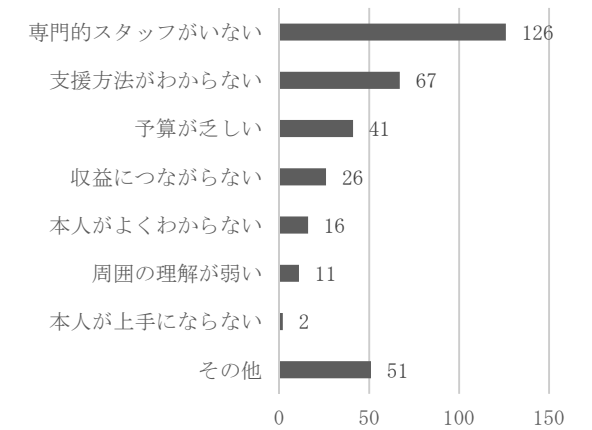


Figure 2 芸術活動支援で困っていること

#### （７）芸術活動支援に取り組まない理由

芸術活動の有無に「いいえ」と答えた48箇所のうち、芸術活動支援に取り組まない理由を複数回答可として尋ねたところ、「生産活動が優先されるので、芸術活動にまで取り組む余裕がない」32箇所（66.67％）、「いずれやってみたいと思っているが取り組みずにいる」11箇所（22.92％）、「利用者・児童生徒に関心が見られないので、特に取り組んでい

ない」10箇所（20.83％）、「事業所や学校と関係のないサークル等で行っていることなので、取り組む必要がない」2箇所（4.17％）、「芸術活動は利用者が生きていくうえで、必ずしも必要ではないので取り組んでいない」2箇所（4.17％）、「以前は行っていたが、芸術活動の支援に長けた職員が異動・退職したのでできなくなった」2箇所（4.17％）、「その他」11箇所（22.92％）であった（Table6）。

| Table 6 芸術活動支援に取り組まない理由 |      |       |
|-------------------------|------|-------|
| 理由                      | 箇所   | %     |
| 生産活動優先で余裕なし             | 32   | 66.67 |
| いずれと思うが取り組みず            | 11   | 22.92 |
| 本人に関心がない                | 10   | 20.83 |
| サークル等で行うこと              | 2    | 4.17  |
| 生きる上で必ずしも必要ない           | 2    | 4.17  |
| 長けた職員がいらない              | 2    | 4.17  |
| その他                     | 11   | 22.92 |
| 複数回答可                   | n=48 |       |

#### （８）芸術活動の希望があがった場合

芸術活動の有無に「いいえ」と答えた48箇所のうち、もし利用者・児童生徒（家族含む）から、芸術活動の希望があがったら、どのように対応するか尋ねた。「表現活動の支援に長けた地域資源につなぐ」23箇所（47.92％）、「特に支援はしないが、利用者・児童生徒の好きなように活動を行なうことを見守る」21箇所（43.75％）、「事業所・学校の職員・先生が支援するように、物的・人的な環境を整える」15箇所（31.25％）、「生産・販売・その他の授業等、優先すべき他の活動があるので、事業所・学校としては希望に応じられない」6箇所（12.50％）、「その他」9箇所（18.75％）であった（Table7）。

| Table 7 希望があがった場合 |      |       |
|-------------------|------|-------|
|                   | 箇所   | %     |
| 地域資源に繋ぐ           | 23   | 47.92 |
| 支援はしないが活動を見守る     | 21   | 43.75 |
| 物的・人的資源を整える       | 15   | 31.25 |
| 希望に応じられない         | 6    | 12.50 |
| その他               | 9    | 18.75 |
| 複数回答可             | n=48 |       |

#### （９）芸術活動支援を始めるために必要な条件

芸術活動の有無に対して「はい」「いいえ」どちらも対象に、今後よりよい芸術活動支援を行っていくために、あるいは新たに芸術活動支援を始めるために、どのような条件が整えば良いか、複数回答可

として尋ねた。「研修会で、制作支援によって利用者がどのように変化し、成果を得られたかを学びたい（事例）」45箇所（33.33％）、「地元で展示・発表の機会がたくさんあればよい」41箇所（30.37％）、「専門家が事業所に来て、支援の仕方を教えてほしい」35箇所（25.93％）、「研修会で、画材の選び方・額装の仕方など技術的なことを学び、支援に活かしたい」28箇所（20.74％）、「作品制作の機会や場所を提供してほしい」25箇所（18.52％）、「制作支援についてのマニュアルやガイドブックがほしい」24箇所（17.78％）、「制作支援等について相談できる窓口がほしい」23箇所（17.04％）、「研修会で、商品製作・販路開拓など収益を上げる方法を学びたい」20箇所（14.82％）、「東京などの都会や海外で展示・発表の機会がたくさんあればよい」3箇所（2.22％）、「その他」9箇所（6.67％）であった（Table8）。

| Table 8 芸術活動支援を始めるために必要な条件 |       |       |
|----------------------------|-------|-------|
| 条件                         | 箇所    | %     |
| 制作支援による利用者の変化・成果を知る        | 45    | 33.33 |
| 地元での展示・発表機会の増加             | 41    | 30.37 |
| 専門家の訪問による支援方法の教示           | 35    | 25.93 |
| 画材の選び方や額装の仕方など技術的なこと       | 28    | 20.74 |
| 作品制作の機会や場所の提供              | 25    | 18.52 |
| 制作支援のマニュアルやガイド             | 24    | 17.78 |
| 制作支援の相談窓口                  | 23    | 17.04 |
| 商品製作・販路開拓など収益を上げる方法        | 20    | 14.82 |
| 都会や海外での展示・発表機会の増加          | 3     | 2.22  |
| その他                        | 9     | 6.67  |
| 複数回答可                      | n=135 |       |

### 3. 「いわて・きららアート・コレクション」への出展について

#### （１）出品経験の有無

事業所及び学校での作品を「いわて・きららアート・コレクション」に出品したことがあるかどうか尋ねたところ、「ある」38箇所（29.46）、「現在は無いが以前はあった」15箇所（11.63％）、「出品したことがない」76箇所（58.92％）であった（Table9）。

| Table 9 出品経験の有無 |       |       |
|-----------------|-------|-------|
|                 | 箇所    | %     |
| ある              | 38    | 29.46 |
| 現在は無い           | 15    | 11.63 |
| ない              | 76    | 58.92 |
|                 | n=129 |       |

#### （２）出品の経緯

出品の有無に「ある」又は「現在は無いが以前は

あった」と答えた 53 箇所のうち、出品の経緯を尋ねたところ、「案内やチラシで知り自分から」26 箇所（49.06％）、「他の職員・教員からの促し」18 箇所（33.96％）「利用者や児童・生徒（家族含）からの申し出」9 箇所（16.98％）、「その他」7 箇所（13.21％）であった（Table10）。

| Table 10 出品の経緯 |      |       |
|----------------|------|-------|
| 経緯             | 箇所   | %     |
| 案内やチラシ         | 26   | 49.06 |
| 同僚からの促し        | 18   | 33.96 |
| 本人家族からの申し出     | 9    | 16.98 |
| その他            | 7    | 13.21 |
| 複数回答可          | n=53 |       |

### （３）出品の理由

出品の有無に「ある」又は「現在はないが以前はあった」と答えた 53 箇所のうち、出品の理由を尋ねたところ、「利用者の社会参加や展示の機会として」48 箇所（90.57％）、「他の展覧会等の活躍の機会につながるチャンスがあるから」6 箇所（11.32％）、「作品の評価を知りたい」5 箇所（9.43％）、「審査員が優れているから」0 箇所（0.00％）、「その他」4 箇所（7.55％）であった（Table11）。

| Table 11 出品の理由 |      |       |
|----------------|------|-------|
| 理由             | 箇所   | %     |
| 社会参加の機会        | 48   | 90.57 |
| 他の活躍の機会に繋がる    | 6    | 11.32 |
| 作品の評価を知りたい     | 5    | 9.43  |
| 審査員が優れている      | 0    | 0.00  |
| その他            | 4    | 7.55  |
| 複数回答可          | n=53 |       |

### （４）出品にあたり困っていること・躊躇すること

出品の有無に「ある」又は「現在はないが以前はあった」と答えた 53 箇所のうち、出品にあたり困っていることや躊躇することはあるか尋ねた。「他の作品のレベルがわからない」18 箇所（33.96％）、「額装や送料、出展料などの金銭的な負担が大きい」17 箇所（32.08％）、「大きすぎる。重すぎる（梱包・運搬が大変）」2 箇所（3.77％）、「本人や家族から『名前を出さないでほしい』といわれることがある」1 箇所（1.89％）、「その他」14 箇所（26.42％）であった（Table12）。

| Table 12 困っていること・躊躇すること |      |       |
|-------------------------|------|-------|
| 困る・躊躇すること               | 箇所   | %     |
| 大きすぎる・重すぎる              | 2    | 3.77  |
| 他のレベルが分からない             | 18   | 33.96 |
| 名前を出さないでとの要望            | 1    | 1.89  |
| 金銭的な負担                  | 17   | 32.08 |
| その他                     | 14   | 26.42 |
| 複数回答可                   | n=53 |       |

### （５）出展しない理由

出品の有無に「現在はないが以前はあった」又は「ない」と答えた 91 箇所のうち、出品しない理由を尋ねたところ、「生産活動等、その他の活動が忙しい」36 箇所（39.56％）、「制作支援が不十分で、出品に値すると感じられる作品がない」17 箇所（18.68％）、「利用者が制作しなくなった」8 箇所（8.79％）、「コストがかかる」3 箇所（3.30％）、「評価することや審査内容に疑問を感じる」1 箇所（1.10％）、「その他」15 箇所（16.48％）であった（Table13）。

| Table 13 出品しない理由 |      |       |
|------------------|------|-------|
| 理由               | 箇所   | %     |
| 生産活動が忙しい         | 36   | 39.56 |
| 出品に値する作品がない      | 17   | 18.68 |
| 本人が制作しなくなった      | 8    | 8.79  |
| コストがかかる          | 3    | 3.30  |
| 評価に疑問            | 1    | 1.10  |
| その他              | 15   | 16.48 |
| 複数回答可            | n=91 |       |

### （６）出展したいとなる条件

もっと出展したい、又はこれから出展したいとなるためには、具体的にどのような条件が必要だと思うか自由記述形式にて回答を求めた。得られた回答について、KJ 法を参考に親近性のあるもの同士に分類し、次の 6 項目に整理された。①「研修機会の準備と気軽な相談窓口」、②「評価のあり方」、③「出展料やコスト負担」、④「搬入・搬出・鑑賞コスト負担」、⑤「生産性や工賃との関係」、⑥「その他」である。分類された記述の代表例を Table14 に示す。

## Ⅳ．考察

研究目的に沿って、優先させて大切にしていること、促進要因、阻害要因について検討する。

### １．優先させて大切にしていること

事業所・学校として何を優先させて大切に取り組んでいるかを尋ねた質問では、「制作を通して本人

| Table 14 出展を動機づける条件（代表的な記述）   |  |
|---|--|
| ①研修機会の準備と気軽な相談窓口  |  |
| ・スタッフが「なんかいいよね」と思っても、自信がない。気軽にアドバイスをもらえるとよい   |  |
| ・利用者の才能を伸ばすにはどのような方法があるのか知りたい   |  |
| ・職員の力量も関係していると思うので、技術的、専門的に学ぶ研修や先進施設の実践の見学  |  |
| ②評価のあり方   |  |
| ・魅力ある賞、スポンサー賞の創設  |  |
| ・出品した作品は全員展示されてほしい  |  |
| ・落選無しとする。審査を望む人と望まない人を分ける   |  |
| ・落選しても講評などがもらえるといい  |  |
| ・出品者全員がなんらかの賞状をもらえると励みになるかもしれない   |  |
| ③出展料やコスト負担  |  |
| ・遠方者にとって運搬に金銭の負担あり、スポンサーなどの援助が必要  |  |
| ・障害のある方のアートの価値を上げる意味合いからすると、出展料の徴収は必要かもしれませんが、それに伴って制作者の意欲を削いでしまう。出展の機会を失ってしまうのは悲しい                       |  |
| ・500 円であっても利用者に出展料を求めるのは、心理的にハードルがある  |  |
| ・材料費等費用面の負担がかからないやり方  |  |
| ④搬入・搬出・鑑賞コスト負担  |  |
| ・遠方からの作品の搬入方法。遠いと、搬入、引きとりに都合がつかず、出展できない   |  |
| ・当施設は県南のため利用者が大きい作品を出展したくても梱包や運搬が大変で出展できないこともある。できれば作品の取りまとめを県南県北等とわけで行っていただけると県南地方の施設学校の生徒も作品作りに取り組めると思う |  |
| ・盛岡への出品なので市外の方は躊躇してしまう。マリオスへ見に行けない。展示期間が短い  |  |
| ⑤生産性や工賃との関係   |  |
| ・工賃向上は県での計画があり進められているが、芸術・創作活動に関しての加算はない  |  |
| ・工賃が月に 1 万数千円だと心のゆとりもない。豊かな暮らしの中であれば、出品したいという意欲が出てくる  |  |
| ⑥その他  |  |
| ・出展基準がわかりやすい出展しやすい方法  |  |
| ・他の展覧会にないものを主張する  |  |
| ・展示時期は他と重なるが秋のほうが望ましい   |  |
| ・知的の部、肢体不自由の部など、障害を分ける  |  |

が喜びを感じること（229 点）」の得点が群を抜いて高く表れた。「発表等を通して、本人が社会参加する機会を設けること（86 点）」や、「作品の発表や表彰などを通して、本人が自信をつけること（85 点）」と比べると、完成する作品よりも、むしろ創作活動へ取り組む姿自体に意味を見出している意識

がうかがえる。「余暇の時間でも行事のステージでも、生産活動の時とは異なる豊かな表情・姿（笑顔で歌う）をみれば、多少の労力を要しても歌の活動は無くせない」、「作品を作り終えたら、『おわり。次』という感じで、あまり固執しない。むしろ、活動自体に没頭して、集中して、こだわって、本人が満足している」というように、本人の満足する姿を重視している。このことは、発表することを念頭におかない取り組みと、発表したり完成作品を公募展に出品したりする取り組みとを区別して考えていることを示している。「いわて・きららアート・コレクション」への出品理由を尋ねた質問でも、「利用者の社会参加や展示の機会として」48 箇所（90.57％）、「他の展覧会等の活躍の機会につながるチャンスがあるから」6 箇所（11.32％）、「作品の評価を知りたい」5 箇所（9.43％）とあるように、出品すること自体は本人の制作活動の場や時間への満足とは異なる趣旨を帯びている。催しの開催をはじめとする発表機会が今より確保されたとしても、本来業務と周辺業務のように意識が区別されていれば、付加的扱いを超えることが難しい。芸術活動支援を促進していく立場からは、創作活動に没頭する場・時間と、発表・鑑賞・評価を得られる場・時間の両者を、包括的に捉える概念を提示する必要がある。制作者の自由で豊かな想像力が適切に評価され、社会に繋がっていく道のりの過程にあることを、制作者、支援者ともに共有できる取り組みが求められている。

### ２．阻害要因

芸術活動の有無に「はい」と答えた 87 箇所のうち、芸術活動支援で困っていることがあると答えた事業所・学校は 62 箇所（71.26％）と 7 割を超えていた。内容として「専門的なスタッフがいらない・足りない（126 点）」の得点が高く、「支援の仕方がわからない（67 点）」、「予算が乏しい（41 点）」と比べると、芸術活動支援は自ら技量を高めるよりも、むしろ芸術教育を受けた専門性ある人材を求めていることがうかがえる。「作品や表現に助言を行うことや、制作支援を支援員が行うのは表現を固定化し、狭めてしまうかもしれない」や「枠をつくらず表現を引き出すにはそれなりの経験あるアートの仕事をしている方に関わってもらえるとよい」というように、芸術活動経験を有する専門性を重視している。「いわて・きららアート・コレクション」への出品



にあたり、困っていることや躊躇することを尋ねた質問でも、「他の作品のレベルがわからない」との回答が18箇所（33.96％）と最も多い結果であった。これらのことから、専門性ある職員の雇用や、専門家からの助言を得ることはもちろん、芸術教育を受けた経験のない職員を芸術活動支援に惹きつける具体的な取り組みが必要である。

また、芸術活動の有無に「いいえ」と答えた48箇所のうち、芸術活動支援に取り組まない理由として、32箇所（66.67％）の事業所・学校が「生産活動が優先されるので、芸術活動にまで取り組む余裕がない」と回答した。「いわて・きららアート・コレクション」へ出品しない理由についても、「生産活動等、その他の活動が忙しい」の回答が36箇所（39.56％）と最も多い結果であった。もし利用者・児童生徒（家族含む）から、芸術活動の希望が挙がったら、どう対応するかとの質問に、「事業所・学校の職員・先生が支援するように、物的・人的な環境を整える」の回答が15箇所（31.25％）あるものの、「表現活動の支援に長けた地域資源につなぐ」23箇所（47.92％）、「特に支援はしないが、利用者・児童生徒の好きなように活動を行うことを見守る」21箇所（43.75％）、「生産・販売・その他の授業等、優先すべき他の活動があるので、事業所・学校としては希望に応じられない」6箇所（12.50％）である結果をみると、現時点で取り組みのない施設においては、希望が挙げられた場合でも、施設内での芸術活動の意欲は消極的な姿勢であるといえよう。「いずれやってみたいと思っているが取り組みずにいる」11箇所（22.92％）、「利用者・児童生徒に関心が見られないので、特に取り組んでいない」10箇所（20.83％）との回答もあることから、利用者・児童生徒に興味・関心があり、かつ事業所・学校側で提供可能な範囲を超えた場合に、相談窓口に円滑に繋がり、機を逸せず芸術活動が実現する環境に接続する体制が求められる。県内のどの事業所を利用していても、芸術活動の希望があれば、適切な地域資源に繋がるインターフェースの設置が具体的に必要である。

### 3. 促進要因

よりよい芸術活動支援を行うため、あるいは新たに芸術活動支援を始めるための条件として、「研修会で、制作支援によって利用者がどのように変化

し、成果を得られたかを学びたい（事例）」との回答が45箇所（33.33％）と最も多く、本人自身の変容や本人に還元される成果の手ごたえを得たいことが表れていた。本人の満足する姿を重視する意識はいずれの質問からも大切にされており、発表や出品の負担から生じるためらいに勝るための取り組みとしても充実させることが期待される。また、「地元で展示・発表の機会がたくさんあればよい」41箇所（30.37％）、「専門家が事業所に来て、支援の仕方を教えてほしい」35箇所（25.93％）と続くように、芸術活動支援に取り組むことで、良いことが見える形や、実感を得られる形で体験できることを求めている。「いわて・きららアート・コレクション」へ出品したいとなるための条件についても、「利用者の才能を伸ばすため」の方法や、「技術的、専門的に学ぶ研修や先進施設の実践の見学」を望む指摘から、身近な地域で鑑賞できる機会の拡大や多様なニーズに対応した研修機会の準備は求められよう。

また「評価のあり方」も数多く指摘された。「落選なしとする。審査を望む人と望まない人を分ける」、「落選しても講評などがもらえるとよい」など、展示されるかどうかの確率が下がることを取り除き、落選しても出品の労が報われる取り組みが促進に繋がるという意見である。障害者の芸術活動や芸術作品は、福祉的視点、芸術的視点、社会的視点など、さまざまな立場での評価のものさしで複雑にならざるを得ない。活動や作品が芸術的価値を有し、適切に評価されていくことを方向目標におくならば、芸術性を軸とする評価基準は変えず維持しながらも、制作者・支援者サイドの要望にできる限り応えていく丁寧な取り組みが必要になろう。そのような意味では、「少額の出展料や材料を含めた準備費用は意欲を削ぐため補助が必要である」に代表される「出展料やコスト負担」に関する要望、「定められた期間と時間に搬入・搬出することの難しさ、展示期間の短さや遠距離問題の軽減が必要である」に代表される「搬入・搬出・鑑賞コスト負担」に関する要望、「収入に直結しない周辺位置としての芸術活動」に代表される「生産性や工賃との関係」に関する要望は、国や自治体の財政面を含めた支援によって負担の軽減・解消が期待される。

### 付記

本研究は、平成27年度岩手県立大学地域政策研究センター地域協働研究地域提案型前期「芸術活動を通した障害者の生きがいづくり－障害者の社会参加を促進する公募展のあり方について－（研究代表者佐藤匡仁）」の助成を受けて行った研究成果の一部である。

### 謝辞

本研究を実施するにあたり、調査にご協力いただきました岩手県内の福祉事業所及び特別支援学校の

皆さまに、記して深く感謝の意を表します。

### 文献

いわて・きららアート協会（2008）いわて・きららアート・コレクション10周年きらら大賞・優秀賞受賞作品集．オノウエ印刷．  
いわて・きららアート協会（2011）きららアート・スペシャルセレクション．杜陵プリント社．  
岩手県立美術館（編）・上田初子・盛本直美（2012）アール・ブリュット・いわて展．杜陵高速印刷．